

エッセイ Essay



日本語ボランティア活動

公益財団法人豊橋市国際交流協会
日本語ボランティア

チョウ ミョン ニョ
趙 明 女

豊橋市国際交流協会の日本語ボランティアの活動を始めて、2年目を迎えようとしています。このボランティア活動を始めるまでに、いくつかの環境の変化や経験を経ての事でした。

私は在日韓国人3世として日本で生まれ育ち、日本の公立小学校、朝鮮学校、大学と二つの国の教育環境のもとで学ぶことができました。小学校の時から在日韓国人であるというはっきりした自我もあり、朝鮮学校に通っている身内や友達をととても羨ましく思ったこともありました。中学校からは、母国語を学ぶことにも強く関心を持つようになり、朝鮮学校に行かせてほしいと切に願いました。日本語以外の言語を学ぶことがとても楽しく、読める、話せることの喜びとともに、韓国における歴史や文化を知ることでもでき、そして何よりも、人とのコミュニケーションの幅を少しずつ広げていけたことが、私にとって、後に大きな支えとなりました。欧米文化や映画などにも子供時代から関心があったので、自ずと英語も少しずつ学んでみようと思うようになり、英語にふれられる環境に身をおいてみる心がけも努めてきました。自分自身が興味を持ち、やり続けたことやチャレンジしたことは、必ず、どのような形であれ、後に肥やしとなり、何かに役立ち生かされます。

自分自身も何か社会で役立つことができないだろうかと思い始めたころ、知人に豊橋市国際交流協会の日本語指導ボランティアの活動を紹介してもらいました。そして日本語ボランティアの活動をするうちに、日本語を必要とする外国人学習者のために、きちんと日本語を教えられないだろうかと思い、日本語教師としての資格も取得しました。

その経験は、現在3人の外国人生徒を教える上でとても役に立っています。生徒の一人は、インドネシア出身の大学院生で、とても勉強熱心で日本語レベルも中級程度です。日本語を学ぶ姿勢もしっかり身につけているので、とても教え甲斐があります。

あと2人の生徒は、ネパール出身の方で、普段はカ

レー屋でシェフの仕事をしているので、レストランでの接客や対応ができる会話を勉強しています。まだ来日したばかりで日常会話がほとんど出来ていないので、平仮名の練習や説明は英語と日本語で一つずつ丁寧にゆっくり教えることを心がけています。無理に早くたくさん詰め込んだ学習をすると、学ぶ以前に窮屈さを感じてしまいますし、学習することすら嫌になってしまい、モチベーションを取り戻すまでに時間がかかります。普段の日常生活や文化、イベントなどの話題から、楽しく会話がはずむ学習ができればいいと思います。

私は、生まれ育った言葉である「日本語」、そして母国の言葉の「韓国語」、そして世界共通言語である「英語」、この3つの言語をもって社会や人々に役立つ様々な活動ができるスタート地点に立ったばかりです。

異国で他言語を学ぶことが、何らかのチャンスとなり、いずれどこかで何かに役立つ喜びになりうるということを、今現在日本語を学んでいる外国人学習者にも知ってもらいたいです。母国語以外に日本語や他言語を取得することは簡単な事ではありませんが、ここ日本での生活面や仕事をするうえで、必ず役に立つ心強いものだと思っています。そのような外国人学習者のためにも、これからも様々なお手伝いやサポートをしていけたら良いと思っています。



日本語教師研修課程の実習時